

梶尾利徳（令和二年三月号）

教皇^パを待つ信者ら雨具まとい居る原爆落下中心地碑前

島からの信者も数多出かけたり一期の会いをまさに得るべく

晩秋の長崎の雨、教皇のスータン濡らす長崎の雨

晩秋の雨にスータンを濡らしつつ献花をせんと身を低めたり

原爆落下中心地碑に身をかがめ祈り始めしフランシスコ教皇

祈りより顔上げしときアーメンと言いし動きの口元なりき

教皇^パ様は気高き笑みを授けたり幼き御子に手をさし延べて

核兵器廃絶を言う教皇の真顔実に実に世の宝物



●作者の言葉

この度は、晋樹隆彦先生の年間選者賞をいただき、ありがたく存じます。御心に留めいただき嬉しく存じます。毎

月五首の送稿を続けていますので、この企画は、小生に縁のないものと思っております。五首に収めきれないときに、七首になったり、八首に

なったりします。今回のフランシスコ教皇の作品も五首に纏めるつもりでしたが、八首になりました。五首のつもりで五首に出来ないところに、力量不足を痛感して居ります。今回の受賞を、作歌の糧にしたいと存じます。ありがとうございます。

●選者の言葉

五年ほど前、筆者も原爆落下地点を訪れ頭を下げた。高校の修学旅行の時以来のことである。原爆によって傾いたお寺の門も近くで見ることが出来た。

梶尾作品について、本誌三月号で私こう記した。「一連、どの作も銜いや虚飾が無く、教皇の祈りの現場をありのままに受けとめた感動が詠まれている」と。

長崎は歌謡にも唄われているように雨の多い国である。その雨の日の教皇の祈り。

〈晩秋の長崎の雨、教皇のスータン濡らす長崎の雨〉の雨のリフレインもとても魅力的である。

今や世界の多くの国がコロナで苦闘している。教皇の祈りの姿を思い浮かべている今日である。